

## 創立記念日に当たって

5月1日の創立記念日を迎えるたびに、幼稚園の創立の事情を思い出さなければなりません。私学は本来然るべき建学の精神があり、それに基づいて教育がなされます。しかし、白鳩幼稚園にはそれがありませんでした。そんな異常なことがあり得るはずがない！ ところがそうだったのです。

あり得ないことが起こったのです。

昭和36年4月に当時の望月町は保育所（望月保育所）を開所することになり、通園カバンも揃え、4月から保育所へ通うのを心待ちにしていた子ども達が大勢いました。ところが直前になり、この大勢の子ども達が定員オーバーで措置外（保育所に入れない）との通知を町から受けたのです。そして何の対応もして貰えずに、4月からの行き場を失ってしまったのです。この行き場を失った34名もの子ども達の保護者の方々は懸命に保育の場所を探し、最後に望月教会にも相談するに到りました。教会は幼児の保護者の方々の熱心且つ切実な要望を受け、望月教会附属幼稚園として5月1日より文字通り全く何も無いところから、町からは全く何の支援もないまま保育を始めたのでした。

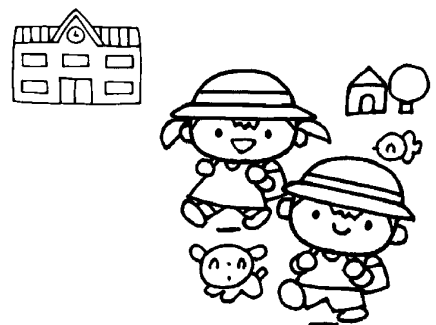
### 支えは関係者の善意と犠牲のみ

それから10年、公認の幼稚園への道を歩み、昭和45年に学校法人信望学園白鳩幼稚園となりましたが、ここに到るまで、町や県からの公的な補助は一切なく、ひたすら関係者の皆様方の善意と犠牲によってのみ支えられてきました。

### 幼稚園の隣に保育所が何故！？

途中、町は無認可の白鳩幼稚園に幼稚園ではなく保育所になるように勧めてきました。初代理事長は判断を保護者に委ねました。当時の保護者の皆様は福祉施設としての保育所、安全に子どもを預かることを本務とする託児所・保育所ではなく、教育機関としての幼稚園となる道を選択しました。

何とか公認を取り、幼稚園となったその翌年、昭和46年に望月保育所がおんぼろ園舎の幼稚園の隣に低い塀を一つ隔てて新園舎を建てて引越してきたのです。（町にどのような意図があったのか、一体どのような経緯でと、強い興味と関心のあるところですが・・・。）



## 充実への第1歩

認可を受けて幼稚園となった昭和45年度より長野県より補助金を受けるようになりましたが、望月町からの補助金はさらにその8年後、昭和53年からでした。この年になってやっと幼稚園の果たしてきた役割が認められたということでしょうか。

## 常に行政への協力を

昭和50年代のことになりますが、まだ長者原分校にも子どもが多かった頃、長者原にも保育所をつくって欲しいという陳情に対して、町は勿論財政難を理由に断りました。しかしこの時は子ども達に対して手をこまねいていたのではなく、白鳩幼稚園に通園バス購入費の一部を補助金とし出し、幼稚園に通園バスを運行させ、長者原及びその周辺の幼児の保育を引き受けるよう要請し、幼稚園もそれを引き受けたのでした。

## 常に積極的になされてきた子育て支援

幼稚園ではありましたが、白鳩幼稚園は当初から保育所以上に保育所的でした。ニーズのある時には乳児保育、0才児保育、延長保育、預り保育等々、正規の幼稚園教育の他に積極的に子育て支援をしてまいりました。

## 保育所のような幼稚園

如何なる事情があろうとも、子どもへの対策が後回しにされてはなりません。まして放置されてはなりません。もう一つ保育所を作るか、補助金を出して民間に委託するか、あるいは他の方策を絶対にとるべきであり、それがあべき福祉の姿ではなかったでしょうか。創立当初より18年間、白鳩幼稚園への補助金は皆無でした。町営の保育所には未満児はおらず、保育所本来の姿からはほど遠く、3時には園から子どもがいなくなる東京の幼稚園のような存在であり続けたのです。平成もかなり経ってから町もやっと未満児保育を始めました。平成13年度には人件費に糸目を付けずに0才児保育を町が始めました。私どもも乳児保育の充実を目指し、社会福祉法人の設立を目指しましたが、断念するに至りました。

## 白鳩幼稚園を支えているもの

白鳩幼稚園は行政の手の届かない部分を補うという役割を終始果たして来たと思います。無認可の幼児園の時から、保護者の方々の幼児期により善い教育を受けさせたいという熱い思いが、幼稚園を創建し、支えて来ました。

これからも白鳩幼稚園は、教育や子育てのニーズに応える幼稚園でありたいと思っています。

白鳩幼稚園は、子ども達の成長と発達のために存在し続けたいと願っています。